

The 9th Regular Concert

第9回
春日井市
交響楽団
定期演奏会

指揮
竹本 泰蔵

ピアノ
エンリカ・チッカレッリ



2000年7月9日(日)

15:00開演 14:00開場

春日井市民会館

ごあいさつ

ごあいさつ



春日井市交響楽団
名誉会長
春日井市長
鵜飼一郎



創立十周年を
迎えて
春日井市交響楽団
会長
中部大学総長
山田和夫

爽やかな風に包まれて、本日ここに春日井市交響楽団の第9回定期演奏会を市民の皆様に鑑賞していただけますことは、わたくしの最も喜びとするところでございます。

春日井市交響楽団は、平成2年の誕生以来「カポ」の愛称で親しまれ、定期演奏会や演奏を通じた交流活動を続ける中、創立10周年を迎えることができました。特に、この定期演奏会は、毎年12月に開催される「市民第九演奏会」とともに、市民参加の本格的なクラシック音楽を楽しんでいただける演奏会として、しっかり定着してまいりました。これもひとえに関係各位の絶大なるご協力と、市民の皆様の温かいご支援の賜物と心からお礼申し上げます。

今回の定期演奏会には、イタリアから国際的なピアニストであるエンリカ・チッカレッリ氏を、指揮者にはベテランの竹本泰蔵氏をお迎えしました。この演奏会を通して、音楽を愛する人々の輪がますます広がり、一人でも多くの皆様に聴いていただけることを期待しております。

さて、それでは堂々たるフルオーケストラの響きと美しいピアノの調べを、皆様と一緒にじっくりと楽しみたいと思います。

本日はようこそ、春日井市交響楽団(愛称カポ)の第九回定期演奏会において下さいました。ありがとうございます。カポも今年で創立十周年を迎えます。これもひとえに、春日井市民のみなさまや、鵜飼一郎市長をはじめとする春日井市のみなさまのご支援のおかげと心よりお礼申し上げます。

この十年間に、毎年恒例の春日井市民第九演奏会や愛環音楽連盟の演奏会に参加し、また、春日井建設協会主催の「菊華コンサート」にもお招きいただき、武儀町や桑名市や瀬戸市や名古屋の愛知県芸術劇場コンサート・ホールにも出かけて他都市のみなさまにも広くカポの演奏をお聴きいただく機会が次第に増えてきました。いつも、会場いっぱいに市民のみなさまがあふれ、市民オケとしてのカポの活動を勇気づけ支えて下さいました。いま、順調に育ってきた幸せを思い、感謝にたえません。

創立時に、私は、「オーケストラの成長は人の成長と同じです。三年経っても、まだ三歳の赤ん坊であり、五年経っても、まだ五歳の子供です。二十年、三十年と、ゆっくりその成長を見守って下さい」とごあいさつしました。大きく育ったとはいえ、カポはまだ十歳の子供に過ぎません。しかし、十歳の時にしか出来ない純真で嘘のない演奏をすることは出来ます。

みなさまのご期待に応えるためにも、企画も、演奏技術も、演奏内容も、運営実態も、さらに充実させるよう努力をいたします。さらなる十年に向けて、みなさまのなお一層のご支援とご協力をお願いいたします。

それでは、いつもの竹本泰蔵さんの指揮、初来日のイタリアの人気ピアニスト、エンリカ・チッカレッリさんと春日井市交響楽団のメンバーの演奏で、名曲の数々をごゆっくりお楽しみ下さい。

プログラム

Program

ロッシーニ作曲／「セヴィーリアの理髪師」序曲

Gioacchino Rossini(1792-1868)
Overture from "Il barbiere di Seville"

モーツアルト作曲／ピアノ協奏曲第24番・ハ短調

Wolfgang Amadeus Mozart(1756-1791)
Konzert für Klavier und Orchester nr.24. K.491

《休憩》 Intermission

ブラームス作曲／交響曲第4番・ホ短調

Johannes Brahms(1833-1897)
Symphonie Nr.4. Op.98

指揮 竹本泰蔵
Conductor Taizoh Takemoto

ピアノ エンリカ・チッカレッリ
Pianist Enrica Ciccarelli

管弦楽 春日井市交響楽団
Orchestra Kasugai City Orchestra

プロフィール



指揮 竹本泰蔵 たけもと たいぞう *Taizoh Takemoto*

1956年(昭和31年)神戸生まれ

1977年(昭和52年)カラヤン・コンクール・イン・ジャパンで、ベルリン・フィルを指揮、第2位に入賞。

1981年(昭和56年)の名古屋フィル アシスタント・コンダクター就任を経て、現在コンサート、オペラ、バレエ、ミュージカルの公演指揮の他、編曲、ラジオ番組でパーソナリティーを務める等、多方面に活躍中。

[主な活動]

コンサート 札幌交響楽団、東京フィル、日本フィル、新日本フィル、名古屋フィル、京都市交響楽団、関西フィル等で、数多く指揮。

オペラ 「ラ・ボエーム」「トスカ」「トゥランドット」「魔笛」「フィガロの結婚」「カルメン」等、公演指揮。

バレエ 「白鳥の湖」「くるみ割り人形」「眠りの森の美女」「ドン・キホーテ」「ジゼル」「バフチサライの泉」「シンデレラ」「コッペリア」「バヤダール」「ラ・シルフィード」「石の花」(日本初演)等、公演指揮。

ミュージカル 「サウンド・オブ・ミュージック」「メリーランド」「獣御殿」(以上宮本亜門演出)「漂泊者のアリア」(栗山民也演出)「回転木馬」「アニー よ銃をとれ」「ポーギーとベス」等の音楽監督、指揮。

放送・その他 FM愛知「東邦ガス・ホームミュージック」(レギュラー出演中)「ファンタジア・シネマ・ライヴ」(指揮・音楽ディレクター)「谷啓のオーケストラの積み木あそび」(指揮・解説・音楽監修)NHK「中学生日記」(出演)等、多数。その他に、ポップスコンサート、編曲、等。



ピアノ エンリカ・チッカレッリ *Enrica Ciccarelli*

その華やかな技巧と優雅な容姿で、いまイタリアでもっとも人気のあるピアニスト。ミラノのヴェルディ音楽院でピアノとオルガンを学び、ローザヌ・アカデミーのマスタークラスで、ジャン=ベルナル・ポミエールにピアノを、セルゲイ・チエルビダッケに音楽現象学を学びました。

彼女は内外の有名なオーケストラと協演し、プラハ・シンフォニー・オーケストラやモルドヴァ・国立オーケストラやクロード・シモーネの指揮するイ・ソリスト・ヴェネチなどとの演奏はいずれも好評を博しました。アゴーラから、

プロコフィエフとラフマニノフとムソルグ斯基の作品など、数々のCDを出しています。クララ・シューマンの協奏曲で音楽雑誌「ムカ」賞を贈られました。

今年は、この春日井での公演を中心に、韓国・香港・タイでも演奏会が予定されています。また、アルゼンチンで国立オーケストラとの協演やニューヨークでベルリーナ・シンフォニカとの協演、ベルギーのブルッセル音楽院でラフマニノフの「ピアノ協奏曲第2番」も計画されていて、急速に国際的な活躍の場が提供されています。初来日。

管弦楽 春日井市交響楽団 *Kasugai City Orchestra*

1990年に春日井市の音楽愛好家を中心とした市民オーケストラです。今年で創立10周年を迎えます。これまで、毎年、夏には定期演奏会を開催し、冬には「春日井市民第九演奏会」に出演するほか、「菖蒲コンサート」(桑名西ロータリー主催:1998年6月)や「菊華コンサート」[(社)春日井建設協会主催・1999年9月]をはじめとして、愛環音楽連盟の中心的なオーケストラとして「第二回愛環音楽祭」(2000年3月)を開いてきました。優れた指導者やソリストと共に、多くの仲間と演奏できる喜びを大切にしながら、「より多くの市民に、より優れた音楽を」の夢を実現するのが私たちの願いです。これからも春日井市交響楽団をよろしくご支援下さい。(団長:花村浩克)

音楽監督 都築正道 つづきまさみち *Masamichi Tsudzuki*

1940年名古屋市生まれ。名古屋大学文学部美学を卒業。関西学院大学大学院博士課程修了。「ワーグナーの楽劇論:音楽におけるロマン性について」で文学博士。現在中部大学国際関係学部教授。春日井市交響楽団音楽監督や(財)かすがい市民文化財団の理事をつとめる。主著に「楽劇:音と言葉の美学」「あくびなしの音楽講座:トスカ」

曲目解説

ピアノ協奏曲第24番

ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルト

(1756-1791) 作曲

1781年、25歳のモーツアルトは、すべての鉄鎖を断ち切って、いよいよ自由な音楽家として念願の独立を果たしました。親からも雇い主からも離れて一人でウィーンで生きていくために、なんとしても成功しなければなりません。その翌年、親に背いてコンスタンツェと結婚したモーツアルトは、ピアノの教師だけではなく、有名な作曲家としても身を立てるために、手つとり早く名を売ろうと、新聞に「予約演奏会」の広告を出しました。新作を作曲者自らが弾いて聴かせ、楽譜を予約して貰おうというのです。それで、「出来るだけのお金を稼ぎます。それは健康の次に大事なことですから」と覚悟したモーツアルトの手から、ピアノ協奏曲の名作が相次いで生まれました。

モーツアルトはこの「ピアノ協奏曲ハ短調Nr.24・K. 491」を1786年3月14日に書き上げて、4月3日の予約演奏会で初演しています。30歳の、それも歌劇《フィガロの結婚》を書かながら、心身共にもっとも安定し、成熟していたときでした。「モーツアルトの音楽は女性的だ」といわれるのは、「女性の感性をもって聴く音楽である」という意味です。女人人が花や宝石をためつ、すがめつ、いつまでも見ても飽きないように、美しいものに対して憧れを持ち、心を開いて、愛情をそそぎながら聴く音楽です。この第1楽章は、まさにその女性の感性を必要とする、優しさと美しさと哀しさであふれています。そして、第2楽章を、夢見るような美しいメロディが包みます。第3楽章は、華やかな変奏曲。七回変奏をつづけます。

第1楽章(快速に)ハ短調・4拍子

第2楽章(ややゆっくりと)変ホ長調・2/2拍子

第3楽章(やや速く)ハ短調・2/2拍子

交響曲第4番

ヨハンネス・ブラームス(1833-1897)作曲

ドレファミ ブラームスは、短くもない64年の生涯に交響曲をわずか4曲しか作曲ませんでしたが、46年の短い生涯を生きたシューマン(1810-1856)もまた4曲の交響曲を作曲しています。シューマンとブラームス、この二人の師弟愛はとても美しいものです。先輩のシューマンは、「新しい道」という評論を書いて新人ブラームスを世界へ紹介しました。これは、中傷と誹謗の多い音楽史にあって、まれにみる感動的なエピソードです。さて、そのシューマンの4曲の交響曲の調性は第一交響曲から順に「変ロ長調(B)→ハ長調(C)→変ホ長調(E s)→ニ短調(d)」となっています。これを変ロ長調の階名で読めば、「ド・レ・ファ・ミ」になります。ブラームスの4曲の交響曲の調性は、「ハ短調(c)→ニ長調(D)→ヘ長調(F)→ホ短調(e)」で、基音を並べると、「C→D→F→E」となり、ハ長調の階名で読めばやはり「ド・レ・ファ・ミ」です。これは、モーツアルトの交響曲第41番『ジュピター』の第四楽章の有名なフーガの主題そのものです[譜